



地域教材と知識の構造図を活用した 社会科授業作り

— 中学年における社会科の学習を通して —

宮古島市立西辺小学校

教諭 下地 林

研修を受けたいと思ったきっかけ



社会科授業

思考力・判断力・表現力の育成



基礎的・基本的な知識・技能の習得

生きる力

I 主題設定の理由(社会科のねらい)P30

34年 身近な地域社会(市や県)の学習



5年 国土の地理的環境と産業



6年 我が国の歴史, 政治及び国際理解

公民的資質の基礎を養う

I 主題設定の理由(公民的資質とは)P30

自他の人
格を互いに
尊重し合う
こと

国際社会に生きる平和で民主的な国家・
社会の形成者, すなわち市民・国民とし
て行動する上で必要とされる資質

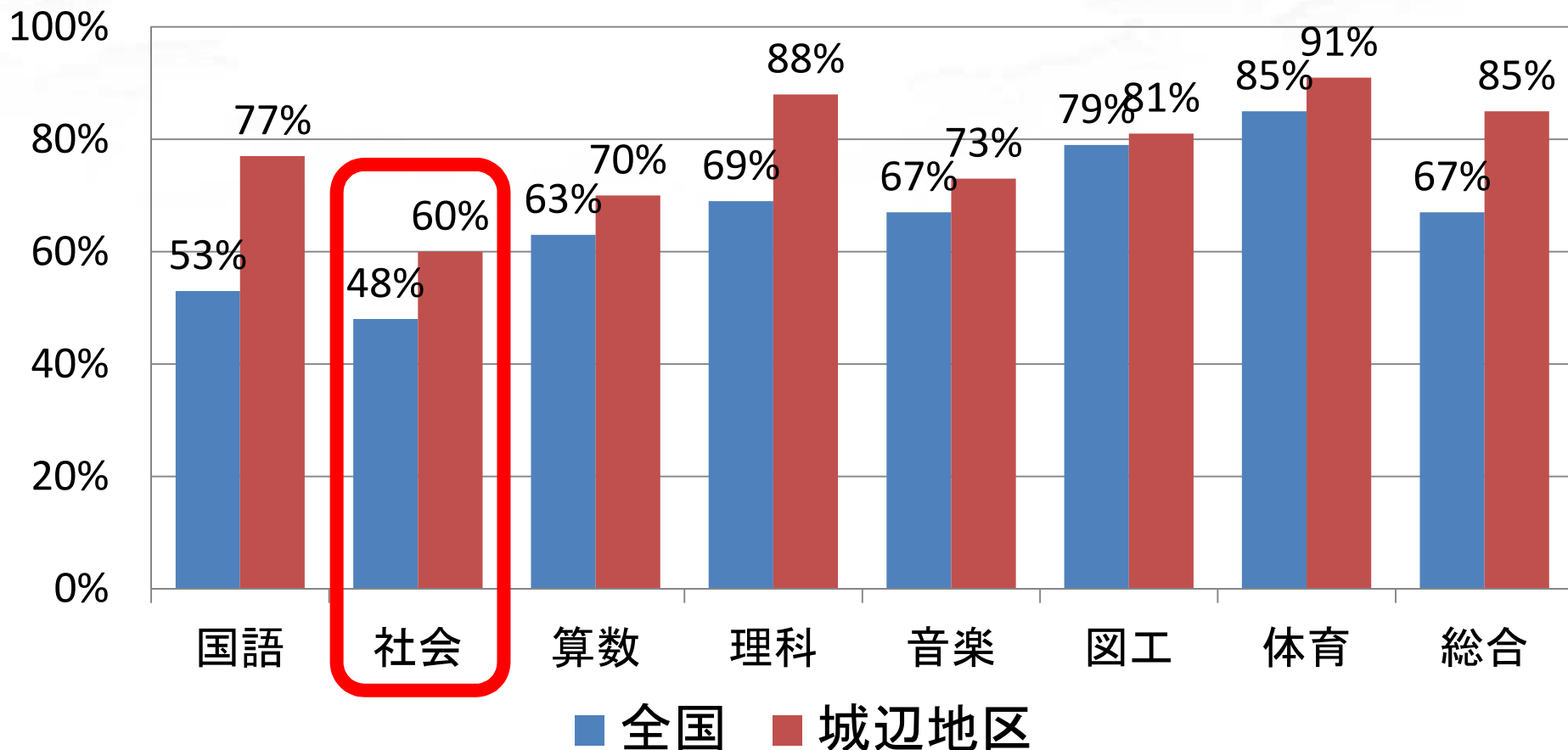
形成者としての
自覚をもち

多面的に
考えたり,
公正に判
断すること

社会的義
務や責任を
果たそうと
すること

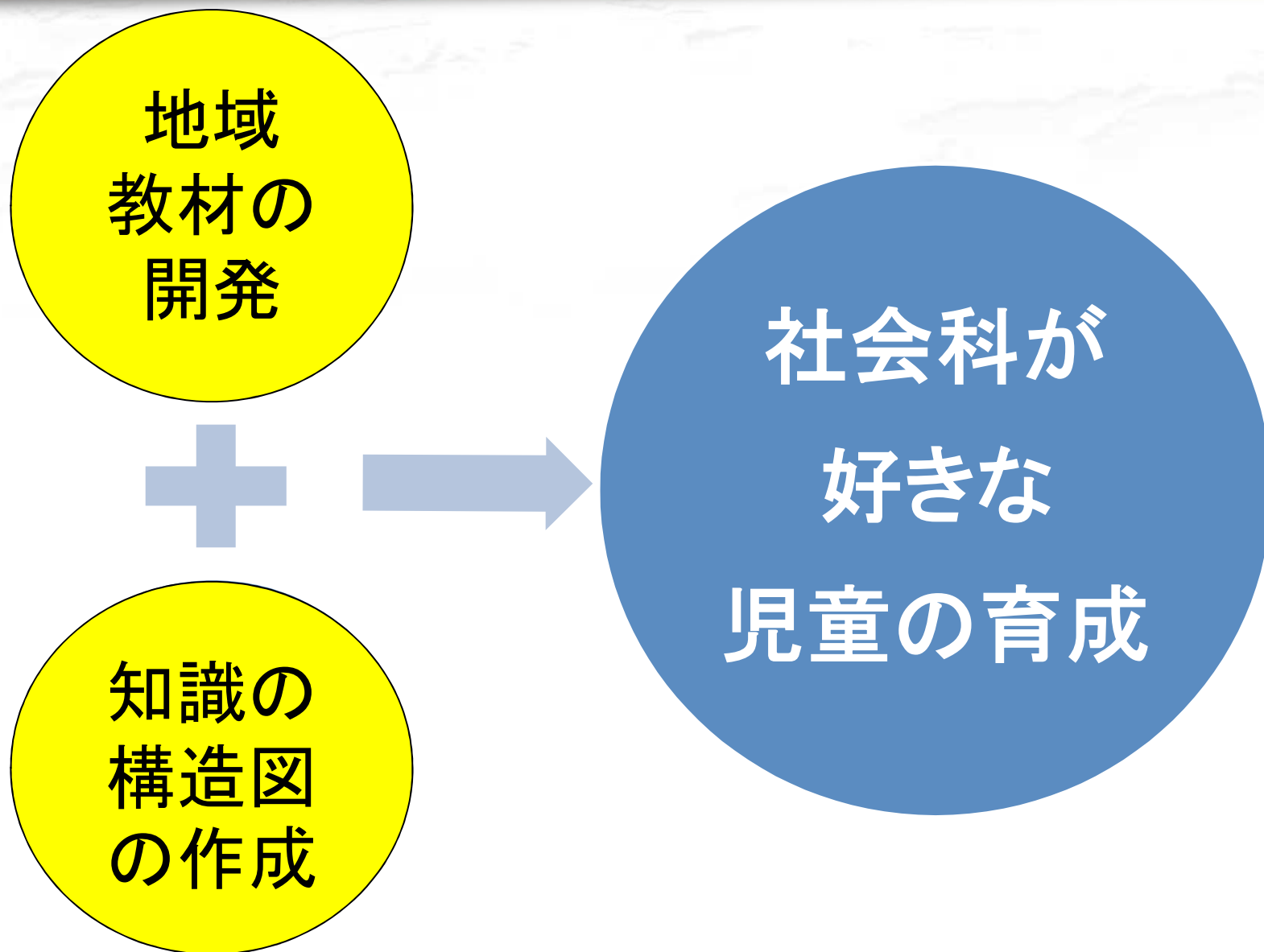
I 主題設定の理由(社会科の課題)P30

Q 教科や学習の時間がどのくらい好きですか？

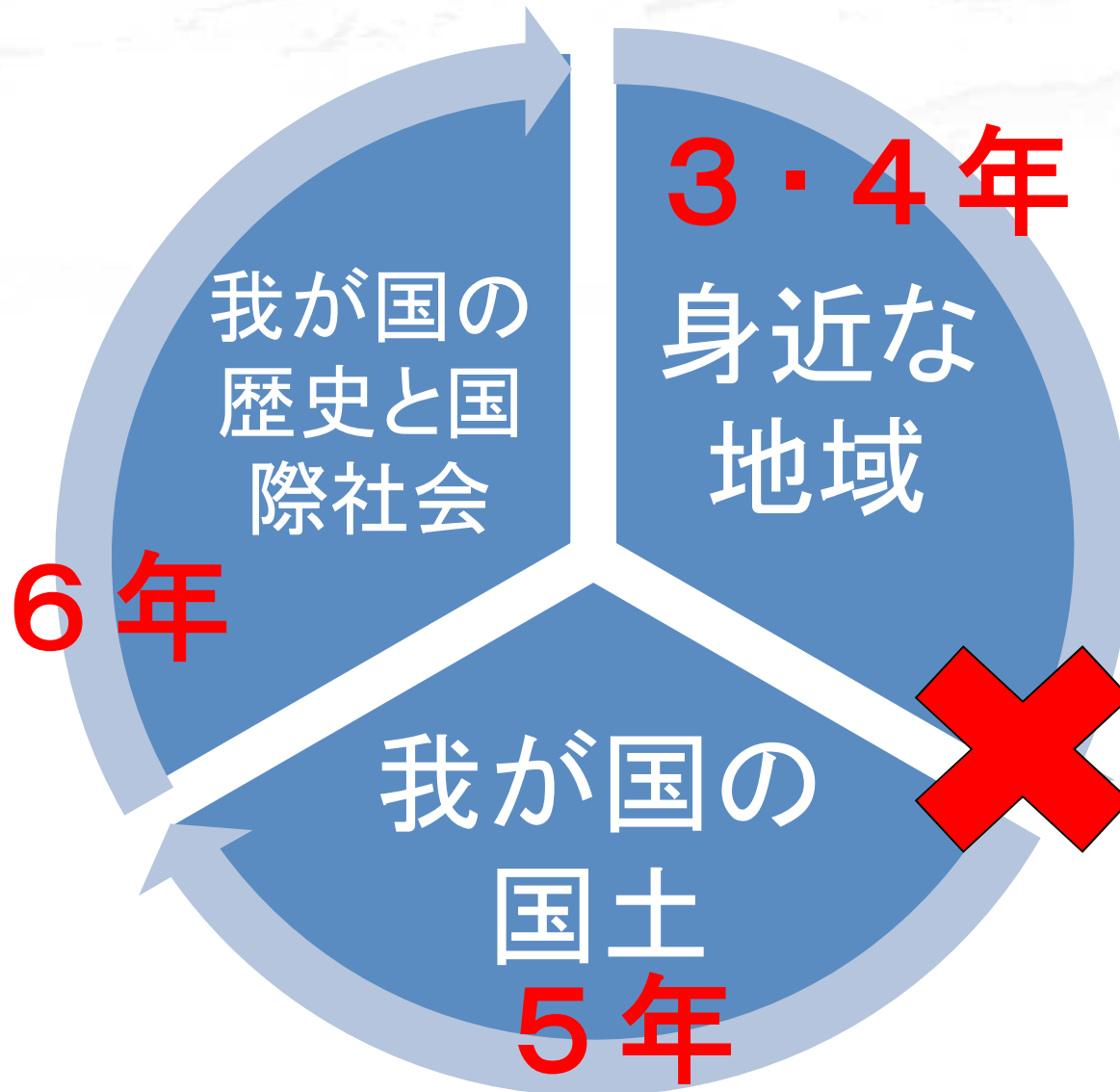


全国(48%)城辺地区(60%) 最も低い値である。

I 主題設定の理由(課題解決に向けて)P30

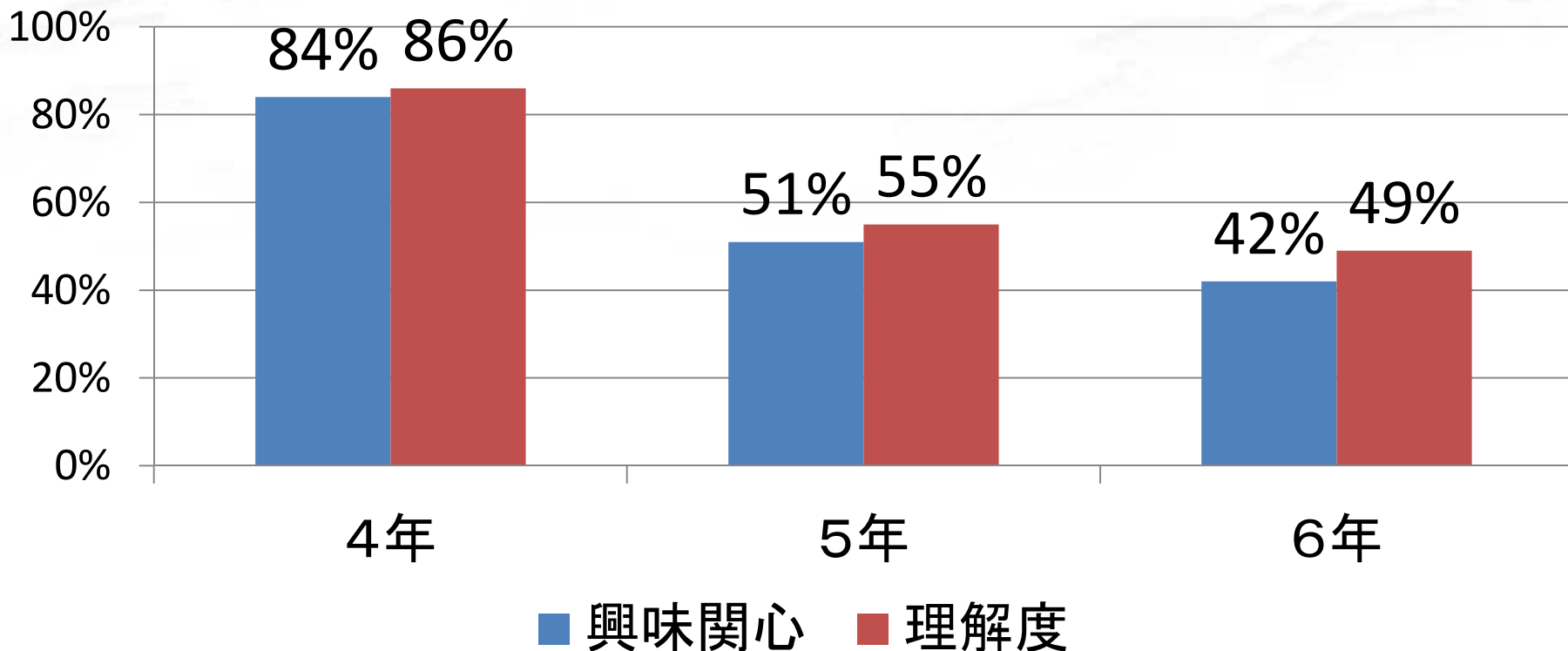


I 主題設定の理由(各学年の系統性)P30



I 主題設定の理由(各学年の興味関心)P30

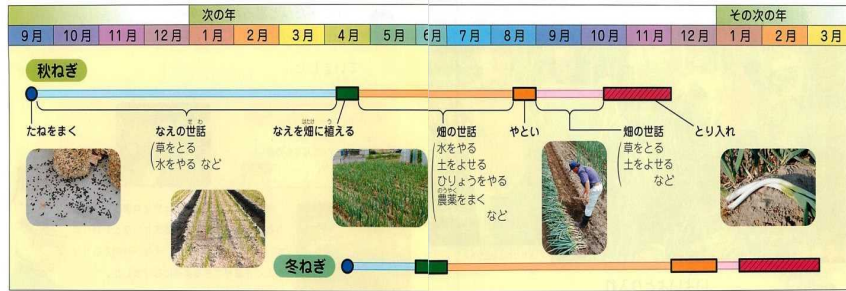
社会科の興味関心と理解度(城辺地区)



地域を対象にした
調べ学習

浄水場や消防署
などの見学が多い

I 主題設定の理由(教科書内容の違い) P30



秋ねぎと冬ねぎ 関内さんに、まがりねぎを育てる1年間の仕事について聞いてみました。

「関内さんは、秋と冬にとり入れをするそうです。」

「ビニールハウスもあつたけど、どのように使っているんだろう。」

農家の1年間の仕事について聞いてみよう。

秋ねぎと冬ねぎがあるだけを考えてみよう。

ねぎづくりのカレンダーを見て、気づいたことを話し合おう。

① ビニールハウスで育てるねぎは、冬でも育てることができます。

関内さんの話

秋にとり入れをする秋ねぎと、冬にとり入れをする冬ねぎがあります。秋ねぎと冬ねぎでは、育つきせつがちがうので、育て方がちがいます。

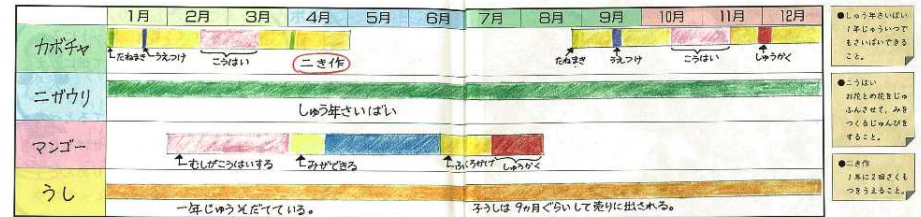
秋ねぎは、1年以上かけてさいごまで育てますが、冬ねぎは、寒さがきびしくなるやどいの作業から、ビニールハウスの中で育てるんですよ。

ねぎは冬にたくさん食べられるので、その時期に合わせてとり入れができるように、自然のめぐみを使いながら、くふうして作業をしています。

ことば

自然のめぐみ

まがりねぎは、川の水やよこした土、日光などいかにあつてつくられています。また、きせつによっていろいろな作業をしています。このように農家では、自然のめぐみを使いながら作物を育てています。



◎ 砂川さんの1年間のしごと

★ 畑をじょうずにつかう

「砂川さんは、9月から12月、1月から4月の2回カボチャをそだてています。そこでつぎのことを聞いてみました。」

- ① 5月から8月まで、畑には何もうえないのですか。
- ② たくさんのしごとをどうやってこなしているのですか。

5月から8月までの間は土づくりをしています。畑に草をうえておくと、しばらくしてくされます。それを土と混ぜるとよいひりょうになって土もよくなります。

むかしは、すきやくわなど、手さぎょうでしたが、今ではトラクター、こうろんき、動力ふんむきなど、きかいでさぎょうをしています。少ない時間で多くのしごとができるようになりました。また少ない人数でこなせるようになってきましたが、きかいを買うのにお金がたぐさかかるとなりました。



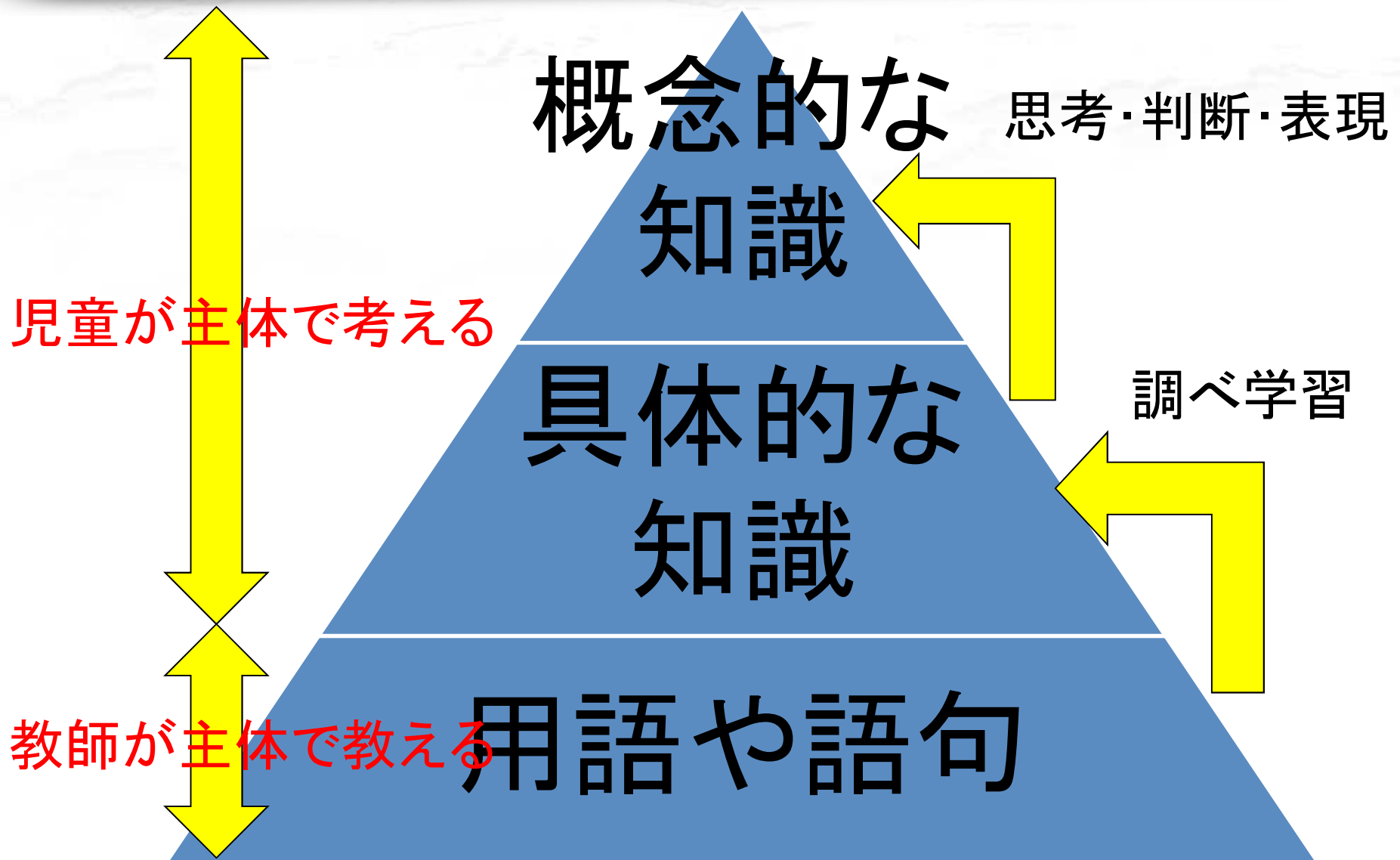
全国版(東京書籍)

取り扱っている農作物
◎まがりネギ
※川の水の利用や、寒さ対策でビニールハウスの活用

副読本(平良地区)

取り扱っている農作物
◎カボチャ・ニガウリ・マンゴー
※温暖な気候なので年間を通して栽培されている。

I 主題設定の理由(知識の構造図①)P30



I 主題設定の理由(まとめ) P30

地域 教材

地域社会に誇りと愛情を持ち，地域社会の一員として自覚を持てる児童の育成

知識の 構造図

各単元で取り上げる知識の範囲や程度を明確にすることにより，取り上げる知識に大きなブレが無くなる

Ⅱ 研究仮説 P30

研究仮説1

社会科の
学習にお
いて



地域教材
を活用す
ることによ
り



主体的に
取り組む
であろう

研究仮説2

何を指導
すべきか
を示した



**知識の構
造図**を活
用するこ
とにより



習得すべ
き知識が
明確にな
るであろう

理論研究

- 小学校社会科における現状と課題
- 社会科における思考力・判断力・表現力の育成
- 地域教材を活用する意義
- 知識の構造図を活用した授業作り

実践研究

- 宮古島の特色を生かした，地域教材の開発
- 思考力・判断力・表現力を育成するための単元構成の工夫
- 児童の考えをふかめる発問の工夫

(1) 小学校社会科における現状と課題

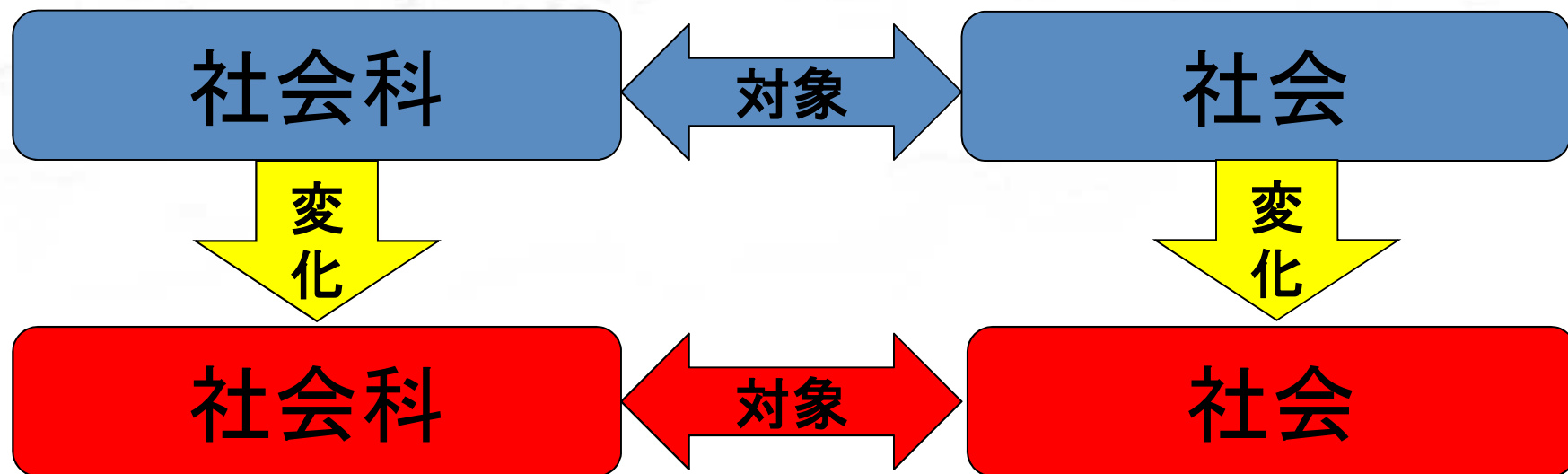
①「社会科は、^{歴史}手間がかかる教科」
(暮らしの、地域、日本)

教師は、社会科の授業で教えるべき社会という複雑な糸を一本一本ほぐしながら、^{社会にはさまざまな「側面」(顔)があります。}それらを順序立てて子どもたちに優しく理解させていかなければならない。
(農業、産業、業(業)など)
(仕事、安全、健康)

②「社会科は、教師の指導力が問われる教科」
地形

社会科は、大人が営んでいる社会を対象に「これまで」とも異なる糸が複雑に絡み合っています。^{貿易}「これから」の社会を考えさせる教科であるので、教師にとっても子どもたちにとっても^{工夫}難しい教科である。
複雑な糸をほぐしながら、子どもたちに学ばせます。
立地
運輸

(1) 小学校社会科における現状と課題



現代社会の様々な課題の解決に向けて、学校教育で取り組む際、教科では社会科以外に考えられない。

教材や資料をどう開発・作成するか。

課題の解決に向けて指導方法の工夫改善

年間指導計画への位置づけ。

(2) 社会科における思考力・判断力・表現力の育成

確かな学力

基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

生きる力

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など

豊かな人間性

たくましく生きるための健康や体力

健康・体力

学力の3つの要素

- ① 基礎的・基本的な**知識・技能の習得**
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な**思考力・判断力・表現力**等
- ③ **学習意欲**

小学校社会科における思考力・判断力・表現力とは？

(2) 社会科における思考力・判断力・表現力の育成

文部科学省教科調査官の澤井陽介氏(2013)
小学校社会科で育てる思考力・判断力・表現力

	何を	どのように	どんな場面で育てるか
思考力	社会的事象の特色や、 相互の関連, 意味を考える力		
判断力			
表現力			

調べたことや考えたことを
表現する力

(3) 地域教材を活用する意義

学習指導要領(指導計画作成上の配慮事項)

- (1) 各学校においては、地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組むようにする。

そのために

地域にある素材を教材化すること

地域に学習活動の場を設けること

地域の人材を積極的に活用すること

そうすれば

児童が興味・関心をもって楽しく学習に取り組める。

(3) 地域教材を活用する意義

学校や授業者が、地域教材を指導計画に位置づけるために

教師自身が各学校の置かれている地域の実態把握に努め、地域に対する理解を深めること。

地域の素材をどのように受け止め、地域の人々や施設などからどのような協力が得られるかを明確にすること。

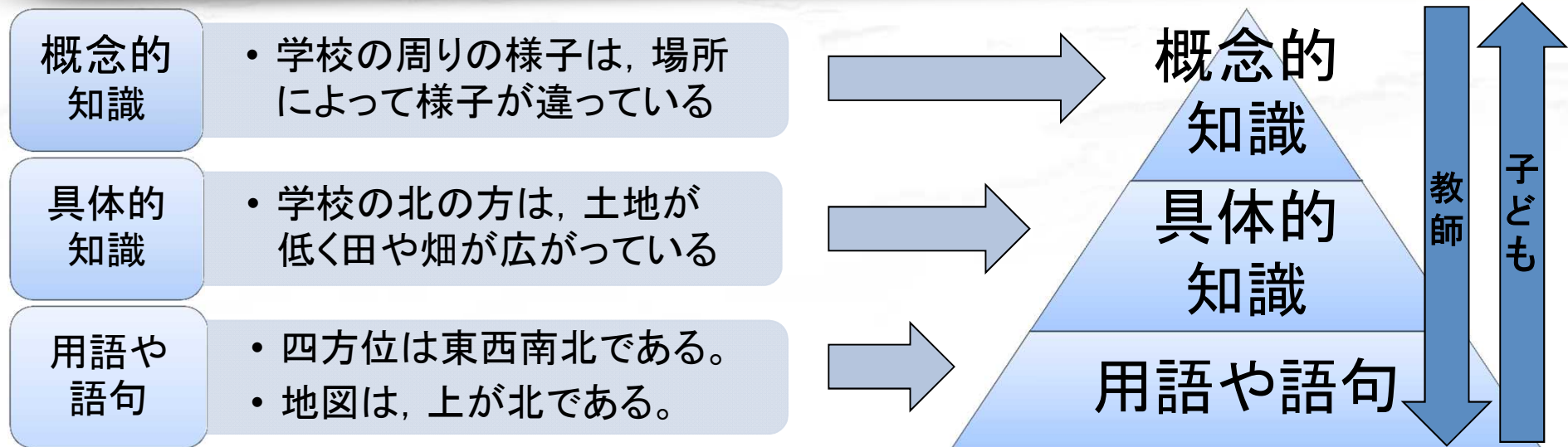
第3学年及び第4学年

- 目標および内容等が2学年まとめて示されている趣旨を踏まえ、各学校が創意工夫を生かす。

第5学年及び第6学年

- 地域教材を取り上げた学習が、単に地域社会の学習にとどまらないように、指導計画への位置づけ方を工夫する。

(4) 知識の構造図を活用した授業づくり



子ども

- 子どもが学ぶとは，既存の知識を構成しながら新たな知識を導き出していくことである。そのためボトムアップしながら概念的な知識を獲得していく。

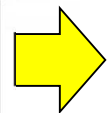
教師

- 教師はトップダウンで，概念的な知識の具体化を図る。「なぜそう言えるのか」を明らかにする作業が，教師の教材研究である。

(4) 知識の構造図を活用した授業づくり

学習指導要領との関連

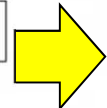
内容(2)
地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。
ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。
イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり



【学習指導要領との関連】
単元の根拠になる。

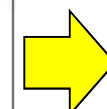
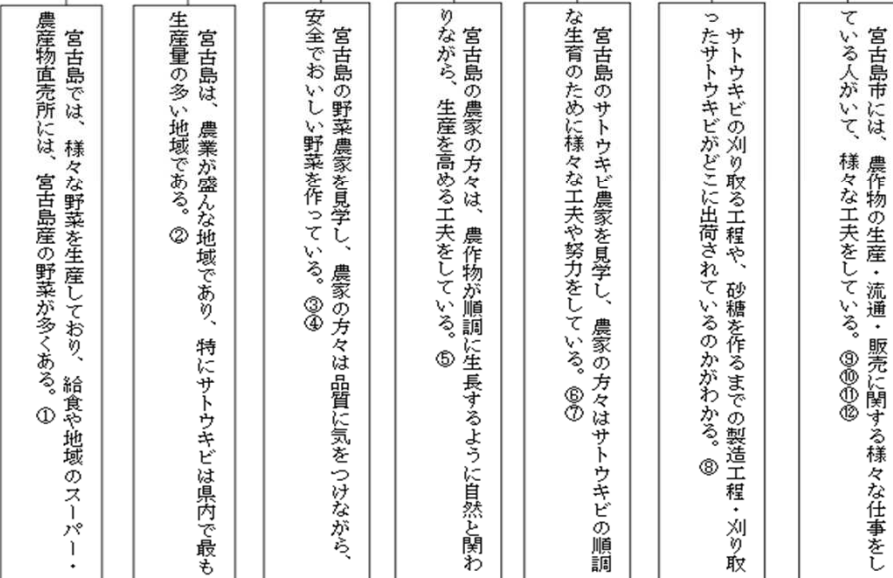
中心概念

宮古島市には、農作物の生産・流通・販売に関する様々な仕事をしている人がいて、様々な工夫をしながら、自分たちの生活を支えていることや、他地域などのかかわりを理解する。



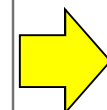
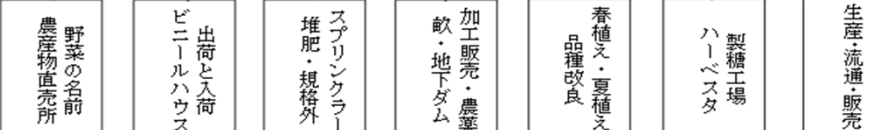
【概念的知識】
考えて導き出す知識。

具体的知識



【具体的知識】
調べて身につく知識。
1単位時間ごとに設定し、
社会の変化に伴って変化
することもある。

用語・語句等

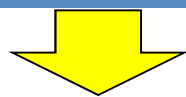


【用語や語句】
覚える知識。習得してい
ないと理解が深まらない。

(1) 宮古島の特色を生かした地域教材の開発



地 域 素 材



地 域 教 材

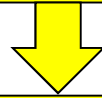
V 研究内容 実践研究 P37

(1) 宮古島の特色を生かした地域教材の開発

学年	小単元名	教材化への手立て
3年	野菜農家の仕事	宮古島産の野菜を調べる活動を通して、疑問に思ったことを整理したり、農家の方に質問する。
	宮古島のサトウキビ	宮古島の基幹作物であるサトウキビの種類や生育について学び、宮古島に適した作物だと分かる。
4年	西原地区の成り立ち	西原地区は、池間島から移住した人々によって形成された地域で池間・佐良浜と同じルーツである。
	西原地区の祭祀行事	西原地区には、地域と子孫の繁栄を願い様々な祭祀行事があり、保存継承している人がいる。
	石原雅太郎と三大事業	三大事業が計画され、暮らしをよくするために市民が協力して電気・水道・港湾を完成させた。
	地下ダムの秘密をさぐろう	雨不足による干ばつの解消のために、地下ダムを造り、生産性やハウス栽培などが可能になった。
	伊良部島の未来	伊良部大橋が完成することにより、伊良部島がどのように変化するかを、資料をもとに予想する。
	宮古島市誕生によって	5市町村の合併から8年が経ち、どのような変化があるのかを実生活とからめて考える。

(2) 思考力・判断力・表現力を育成するための工夫

社会科が求める思考力・判断力・表現力



知る・わかるだけでなく、その背景を熟考し、自分なりの意見や考えを持ち、それを表現しながら社会への参加・参画を考える力。（広島大学教授小原友行氏）

そのために必要な問いとして

- ①「どのように、どのような」
- ②「なぜ、どうして」
- ③「どうしたらよいか、
どの解決策がより望ましいか」

(3) 児童の考えをふかめる発問の工夫

①「どのように、 どのような」

- みなさんの祖先である西原地区の先輩は、何も無い西原地区に来て**どのように**

②「 ど

- 昔の人は、「当
感じた
話してい

みなさんの祖先である西原地区の先輩は、何も無い西原地区に来て、**どのように思ったのか？**

親や兄弟と離れてさみしいけれど、仕方ないもう一度がんばって、西原を豊かな場所にしよう！

うに変化したのだからか？

もの間
行事
いる

- これから宮古島が、



(1) 宮古島の農業と農家の仕事

本單元における中心概念(概念的知識)

宮古島市には、農作物の生産・流通・販売に関する様々な仕事をしている人がいて、様々な工夫をしながら、自分たちの生活を支えていることや、他地域などとのかかわりを理解する。

3年生の実態(事前アンケートの結果から)

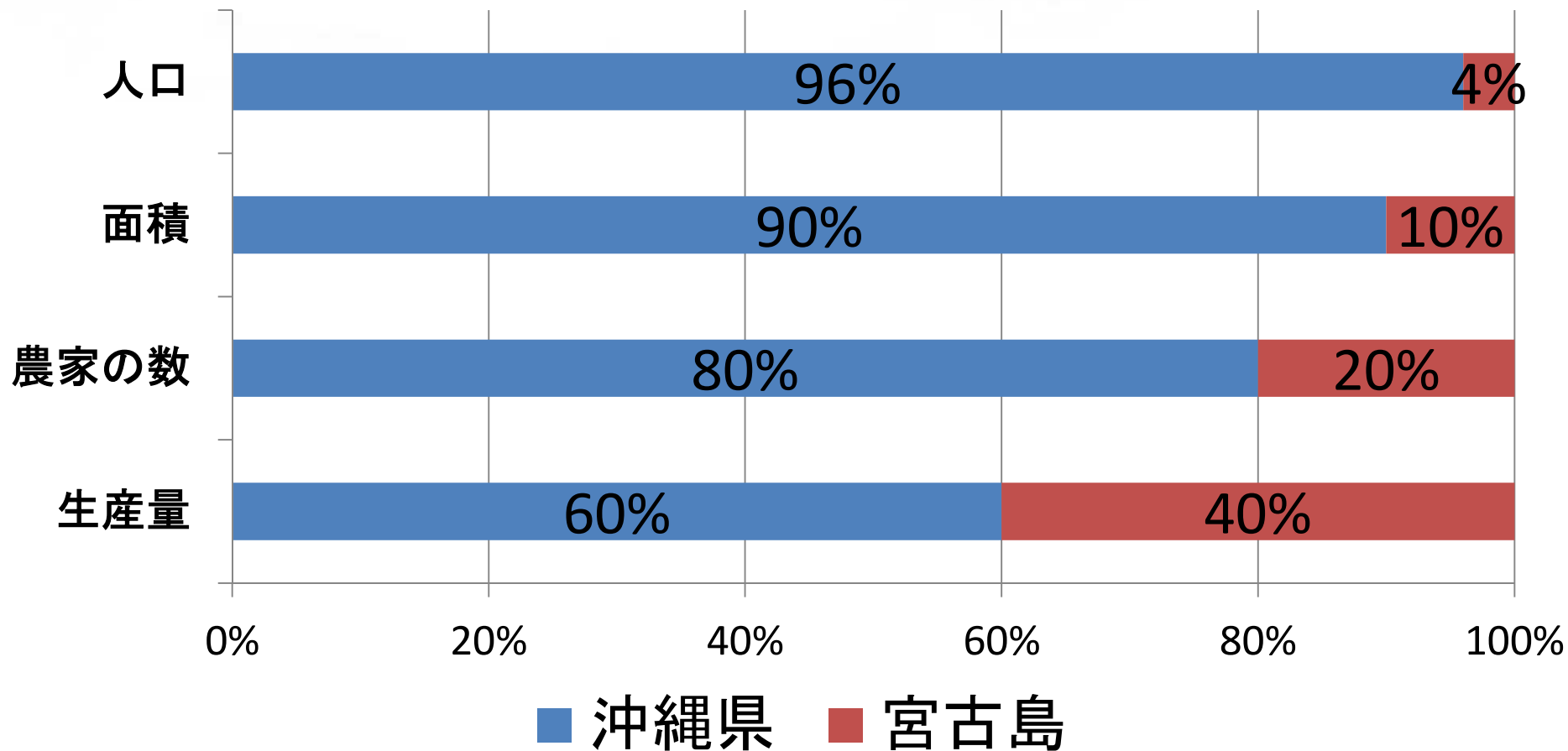
- ◆ ほとんどの児童(11人中10人)が、サウキビの植え付け・収穫の経験がある。
- ◆ 宮古島で栽培されている野菜については、何がどの程度、つくられているのかという具体的な知識はない。
- ◆ 宮古島は、農業の盛んな地域であるという認識を持っている児童は少ない。

VI 仮説検証のための授業実践 P40

(1) 宮古島の農業と農家の仕事

3年生に、宮古島の農業の特色を伝えるために

沖縄県と宮古島の比較



VI 仮説検証のための授業実践 P41

(1) 宮古島の農業と農家の仕事

①砕土(さいど)・・・サウキビを植える前に畑をたがやします。できるだけ深くほり、土を細かくすることがおいしいサウキビを育てるポイントなので、ていねいに行います。昔は、牛や馬の力をかりて、たがやしていたそうです。

※サウキビは宮古島の方言で「ブース」といいます。



宮古島の特色を生かした点

- ①宮古島の方言での呼び方
「ブース」「サニ」「バラン」
- ②家族や親戚で協力して作業を行う。
- ③地下水に影響のないような肥料の開発。

(2) 宮古島の過去を学び、未来を創ろう。

本單元における中心概念(概念的知識)

現在の豊かな生活は、先人達の築き上げた土壌の上に成り立っており、それらを継承発展させることは、現在そして未来を生きる人々にとって非常に大切である。

4年生の実態(事前アンケートの結果から)

- ◆ 社会科が好きと答えた児童の数は、他の教科と比べて最も少ない。
- ◆ アンケートでは、宮古島を好きと答えてはいるがその理由が不明確である。
- ◆ 「宮古島の良い所は？」という設問では、無回答も多く宮古島に対する具体的な知識が乏しい。

(2) 宮古島の過去を学び、未来を創ろう。

4年生に、宮古島の過去を学ばせ、未来を考えさせるために

過去

池間民族

三大事業
石原雅太郎

昔の暮らし

現在

西原地区の
祭祀行事

自治会長さんの
仕事

祭祀行事の
後継者不足

未来

地下ダムによって
変化した農業

合併の果たす役割
と問題点

伊良部大橋開通後
の未来

VI 仮説検証のための授業実践 P50

(2) 宮古島の過去を学び、未来を創ろう。



元平良市長石原雅太郎

VI 仮説検証のための授業実践 P50

(2) 宮古島の過去を学び、未来を創ろう。

昔の暮らしを振り返る。

石原雅太郎市長について調べる。

工事は、市民も参加しみんなで完成させたことを知る。

当時の人々に手紙を書く。

三大事業は、市長の力だけではなく市民全体の力。

三大事業が完成したことで市民生活が大きく変化。



VI 仮説検証のための授業実践 P51

(2) 宮古島の過去を学び、未来を創ろう。

✖ 三大事業を完成させた当時の人々に手紙を書いてみよう。

石原雅太郎さん、三大事業を完成するまで協力してくれた皆さん本当にありがとうございます。おかげで、電気も簡単につくし、水もジャロをひねればすぐに出来ます。私達は本当に幸せです。

当時の生活の様子を知ることにより、地域の先人(石原雅太郎・当時の市民)に対する感謝を、全ての児童が書けていた。

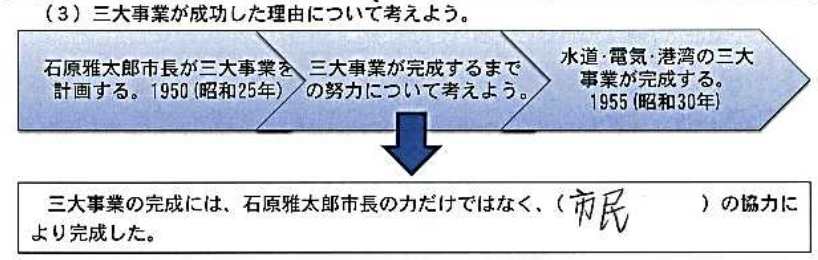
現在を生きる私たちが宮古島の過去を学び、未来を創ろう④ 1/28(木)

- 今日の授業のめあて
昔(50年ほど前)の人々が生活をよくするために努力したことがわかる。
- 石原雅太郎は、どのような人物なのかを調べましょう。
三大事業を完成させた人物、平良町議員や平良市長を調べた人物。
- 旧平良市の三大事業について調べましょう。
(1) 三大事業で行われた、3つの工事は何でしょうか？

①	②	③
水道	電気	港湾

(2) 三大事業について調べよう。

	水道	電気	港湾
完成までの苦勞、	機械がなかったため、穴を掘ったり水道パイプを埋めるのが大変だった。	送電をはじめたけど古いものをつかったため、期待通りにはいかなかった。	平良港は水深が浅く1000t級の船しか近けなかったため、苦労した。
生活の変化	水くみの苦勞や雨不足の心配がなくなった。	明るく便利な電化製品が使えるようになった。	はしけにのらなくすべふようになった。

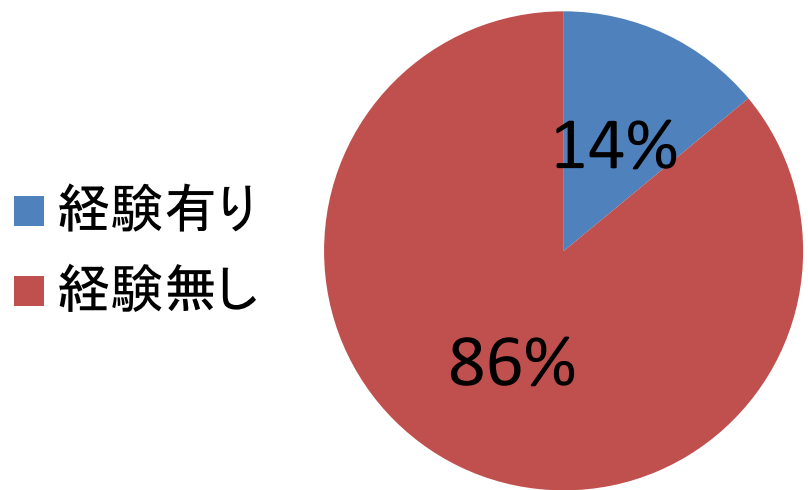


VII 結果と考察 P52

(1) 仮説1の結果と考察

1. 社会科の学習において、身近な地域素材を教材化することによって、児童一人一人が興味・関心を持って主体的に学習に取り組むであろう。

地域教材を開発し、
授業を行ったことがありますか？



- 地域教材を開発するためには
- 指導内容の明確化
 - 具体的な教材の開発
 - 学習活動の構成
 - 指導方法の工夫

醍醐味



負担感

VII 結果と考察 P52

(1) 仮説1の結果と考察

社会科で、地域教材を開発する際に重要だと思うこと

1	学習指導要領に沿った内容になっているか？	31%
2	地域教材が、標準教科書よりも指導に適しているか？	9%
3	児童の驚きや疑問を引き出せるか？	12%
4	資質・能力が実生活に生かせるか？	10%
5	児童の興味関心を喚起することができるか？	24%
6	教材を通して、体験的な活動が行えるか？	12%

地域教材を開発する際に気をつけること。

- ① 学習指導要領に沿った教材。 ② 身近に感じられる教材。 ③ 自分事として考えられる教材

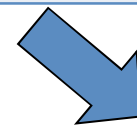
(1) 仮説1の結果と考察

検証前と検証後における児童の変容

1. 宮古島は好きですか？	
検証前	検証後
はい（全員）	はい（全員）



- 海がきれいだから
- 友達や家族がいるから
- 宮古島に住んでいるから
- 生まれた場所だから
- ゴミがないから



- 誰にでも優しく、困っている人がいたら助けてくれる人が多いから。
- 昔から続いている色々な行事があるから。
- 台風が多いけど、色々工夫してサトウキビを作っているから。
- 小さい島なのに、地下ダムや伊良部大橋などの大きなものが作れるから
- 那覇と比べると田舎だけれど、自分の生まれたところだから。

検証授業を通して、宮古島に興味関心をもつ、きっかけになったのではないか。

VII 結果と考察 P53

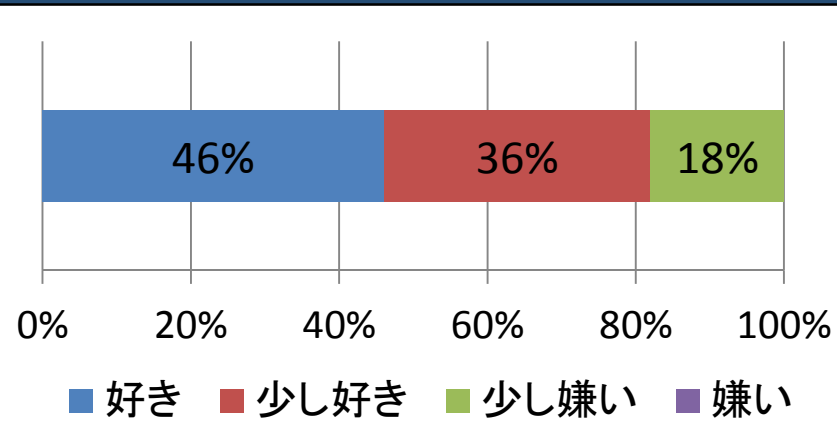
(1) 仮説1の結果と考察

将来の宮古島が、どのようになって欲しいか？

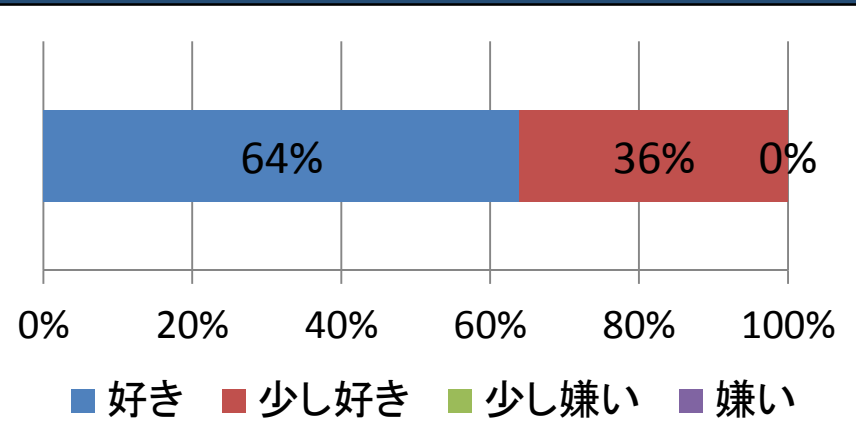
検証前	検証後
<ul style="list-style-type: none">・今よりもごみのないきれいな島・緑が多くある自然な島・色々なお店がある島・ホテルがたくさんある島	<ul style="list-style-type: none">・昔から続いている行事が、ずっと残る島。・これまでと変わらずに、海がきれいな島。・人がたくさん集まるにぎやかな島。・今まで通りの島。

「変わらないこと」あるがままの姿で、これからも宮古島があり続けて欲しいという児童の視点に、本単元の答えが詰まっていると感じた。

社会科の関心意欲(検証前)



社会科の関心意欲(検証後)



(2) 仮説2の結果と考察

2. 社会科の教材研究の場面において、取り上げられる知識を抽出し、階層的に整理した知識の構造図を作成することによって、児童が習得すべき知識が明確になるであろう。

知識の構造図を活用し、授業づくりを行った成果

- ①指導者が理解させるべき知識を、事前に把握することができた。
- ②単元全体を見通し、社会的事象がどのように関わっているのかを把握することができた。
- ③事前に知識を設定することにより、取り上げられる知識に大きなブレが無くなった。

VII 結果と考察 P54

(2) 仮説2の結果と考察

中学年の担任の社会科に対する苦勞

1	どのように社会科の授業を進めていいのかわからない。
2	調べ学習等で、地域を学習する余裕がない。
3	指導する内容・範囲の選択が難しい。
4	教材をどう作ってよいかかわからない。
5	社会科の目標に迫っているのかわからない。

社会科に必要な教師の力(國學院大学 教授 安野功氏)

社会科の授業で知識の構造図を作成することは、非常に有効である。

(1) 成果

地域を見つめ直すきっかけを、つくることができた。

意欲的に授業に参加させることができた。

単元全体を見通した授業を行うことができた。

児童が自分の問題として捉え、活動できた。

(1) 課題

年間指導計画の見直しと内容の精選

高学年において、地域教材を単元の中に位置づけられる

か。

社会科のねらいから外れずに、地域教材の一般化を行う工夫。

児童の実態に柔軟に対応できるような地域教材の開発。



地域教材と知識の構造図を活用した 社会科授業作り

— 中学年における社会科の学習を通して —

宮古島市立西辺小学校

教諭 下地 林